

## 倫理審査委員会

開催日	平成29年6月12日（月）
出席者	院長、副院長、診療部長、事務部長、看護部長 薬剤科長、業務班長、理学療法士長、運動療法主任 佐藤外部委員
検討事項	「平成29年度医療施設用ロボット導入モデル事業」による、HAL自立支援用（単関節タイプ）の検証実施の検討
議論概要	<p>神経難病等の疾病により自力では肘又は膝関節を動かすことが難しい患者に対して医療用ロボットスーツを利用することで集中的にトレーニングすることが可能で、患者の膝、肘関節機能の治療効果が期待出来る。</p> <p>内容としては、患者が筋肉を動かそうとしたときに発生する生体電位を信号として受け取り、ロボットスーツ（以下HAL）が動作を補助し、関節運動をアシストすることで運動機能を改善することを目的とする。</p> <p>装着は皮膚に電極を貼り、身体にHALを着け、ケーブルをつないで使用する。</p> <p>週2～3階の使用を予定している。</p> <p>問題点としては、①皮膚に電極を貼付するため、かぶれ等の症状が出る可能性がある。②HALと身体の間での擦過傷が出来る可能性があるなどの可能性がある。③運動量の増加により疲労等が出現することがある等であり、効果を得るには継続して使用することが望ましいが、患者の申し出によりいつでも使用を中止出来るものとする。</p> <p>今回、ふくしま医療機器産業推進機構が行う「平成29年度医療施設用ロボット導入モデル事業」による、HAL自立支援用（単関節タイプ）の検証実施に参加するための検討が必要である。</p>
決定事項	承認